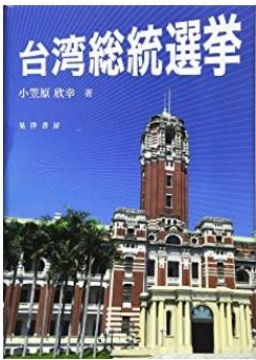


# 第15回 檉山純三賞

## 第15回 檉山純三賞 <学術書賞> 受賞作



『台湾総統選挙』  
小笠原 欣幸 著  
晃洋書房 刊  
2019年11月10日発行

### 小笠原欣幸氏の紹介

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授



1958年生まれ  
1981年一橋大学社会学部卒業  
1983年一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了  
(社会学修士)  
1986年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了  
(社会学博士)  
1991年東京外国語大学外国語学部専任講師  
1994年東京外国語大学外国語学部助教授  
1994-95年台湾国立政治大学国際関係研究センター客員  
研究員  
1999-00年台湾国立政治大学中山人文社会科学研究所  
客員研究員  
2013年東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授  
2020年東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

## 第15回 檉山純三賞 <一般書賞> 受賞作



『賄賂のある暮らし  
市場経済化後のカザフスタン』  
岡 奈津子 著  
白水社 刊  
2019年11月10日発行

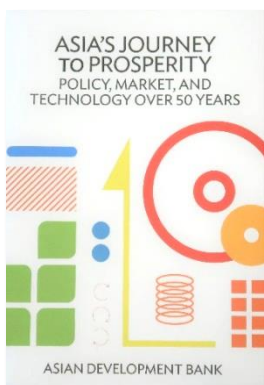
### 岡奈津子氏の紹介

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所  
新領域研究センター・ガバナンス研究グループ長



1992年 東京大学教養学部教養学科(ロシアの文化と社会)卒業  
1994年 東京大学大学院総合文化研究科修士号取得  
2008年 英国リーズ大学政治国際関係学科博士号取得  
  
1994年 アジア経済研究所入所 総合研究部  
1998年-1999年 海外派遣員 コロンビア大学ハリマン研究所客員研究員  
1999年-2001年 海外派遣員 カザフスタン発展研究所客員研究員  
2001年 地域研究第2部  
2003年-2011年 地域研究センター 中東研究グループ  
2011年5月-2011年12月 海外調査員(カザフスタン アルマトウ)  
2012年1月-2017年6月 地域研究センター 中東研究グループ  
2017年7月- 新領域研究センター ガバナンス研究グループ長

## 第15回 檉山純三賞 <特別賞> 受賞作



『ASIA'S JOURNEY TO PROSPERITY  
: POLICY, MARKET, AND TECHNOLOGY OVER 50 YEARS』  
ASIAN DEVELOPMENT BANK 刊  
2020年1月発行

## 第15回榎山純三賞の審査について

選考委員代表 末廣 昭

2006年度から始めました榎山純三賞も、今回で15回目を迎えることになりました。今年度は新型コロナウイルスが世界を席卷し、多数の感染者と犠牲者、そして先の見えない不安感を生み出し続けています。新型コロナウイルスの影響で、職場も教育の場も生活の場も大きく変わりました。榎山純三賞の選考委員会も例外ではありません。候補作の第一次選考会合も、最終選考委員会の方法も、「3密状態」をできるだけ避けるための工夫をこらしました。残念ながら授賞式は今年度中止とし、来年度に2年分まとめて実施することにしました。しかし、それまでに新型コロナウイルスが収束しているかどうかは、だれにも予測はできません。

さて今年度は、2019年4月から2020年6月までに刊行されたアジア関係図書の中から、学術書28点、一般書26点、両部門に共通する著作4点、計58点(重複の推薦を加えると計67点)を選考の対象としました。この中から7月の第一次選考で15点を選び、10月初めまで選考委員6名で分担して候補作を読み(一人平均6冊)、10月5日の最終選考会で慎重に審議を重ねた結果、全員一致で、学術書は小笠原欣幸著『台湾総統選挙』(晃洋書房)に、一般書は岡奈津子著『「賄賂」のある暮らし——市場経済化後のカザフスタン』(白水社)に、特別賞の授賞をアジア開発銀行『『ASIA'S JOURNEY TO PROSPERITY: POLICY, MARKET, AND TECHNOLOGY OVER 50 YEARS』(ASIAN DEVELOPMENT BANK)に、それぞれ決定しました。

台湾の総統選挙は、米国の大統領選挙に該当し、毎回大変な盛り上がりを見せる台湾の一大政治イベントです。またその選挙結果は、中国との距離の取り方、「台湾人」としてのアイデンティティの在り方と関連させて、近年ますます国際的な関心を集めている問題です。毎回の総統選挙を地に這うような「密接観察」で調査してきた著者は、計6回の総統選挙のそれぞれの争点を整理し、有権者の属性(本省人や外省人)や投票の場所(県市だけでなく郷鎮レベルにまで及ぶ)に注目して、投票行動を詳しく分析しました。また、統計手法を使った選挙分析だけではなく、複雑な台湾の国民の政治に対する意識と行動を、現場での聞き取り調査の結果を駆使して濃密に描いた研究が高く評価されました。著者は総統選挙だけでなく、台北に近い一都市の地方選挙も長年にわたって定点観測を続けており、アジア政治を分析する独自の「政治観測アプローチ」も、授賞の理由となりました。

一般書の岡氏の本は、1991年末のソ連崩壊によって生まれたカザフスタンの、社会主義から市場経済に移行した後の政治、経済、そして何より生活の実態を、現地での滞在経験を中心に描いたものです。旧ソ連の構成国である中央アジア諸国に関する本は、これまで市場経済への移行期に関する研究か、豊富な資源を紹介する研究が中心でした。この本の特徴は、社会主義国が市場経済を導入することで、政治、ビジネス、教育などあらゆる分野に「賄賂」がいわば潤滑油として機能している実態を、地域研究者と生活者(当時、幼い息子を同行)の双方の観点から克明に描いた点にあります。賄賂の負の側面だけではなく、市場経済化がもたらす普遍的な行動として描いた点を高く評価しました。

今年度は、アジア開発銀行が創立50周年を記念して編集した報告書(英文で583ページ)を特別賞に決定しました。世界銀行『東アジアの奇跡』(1993年)に匹敵する、もうひとつの傑出したアジア経済論であり、アジア開発銀行の過去50年間の活動だけでなく、アジア経済の半世紀の歴史を、政府や市場の役割、貿易と直接投資、農業の発展、技術革新、ジェンダーと開発、貧困削減、環境保全など15章に分けて長期のトレンドとして分析している点は、きわめて貴重かつ有益な仕事と判断しました。個人の研究者ではなく、国際機関の報告書ですが、刊行を企画した中尾武彦総裁(当時)、澤田康幸チーフエコノミストの貢献を含め、その学術的功績を高く評価しました。

なお、最終選考会合で最後まで残った本は、学術部門では加治佐敬著『経済発展における共同体・国家・市場——アジア農村の近代化にみる役割の変化』(日本評論社)、外山文子著『タイ民主化と憲法改革——立憲主義は民主主義をすくったか』(京都大学学術出版会)、佐藤若菜著『衣装と生きる女性たち——ミャオ族の物質文化と母娘関係』(京都大学学術出版会)の3点でした。一方、一般書ではメディアでも話題になった加藤青延著『目撃 天安門事件——歴史的民主化運動の真相』(PHPエディターズグループ)です。

多数の優れた本を刊行された出版社と編集者に改めて敬意を表すると同時に、来年度もよい本の推薦を心からお願い申し上げます。

### 第15回榎山純三賞選考委員の紹介(敬称略50音順)

末廣 昭

学習院大学  
国際社会科学部教授  
東京大学名誉教授

唐木 囿和

慶應義塾大学名誉教授

千野 境子

産経新聞社客員論説委員

波多野 優子

公益財団法人  
榎山奨学財団理事

若林 正文

早稲田大学名誉教授  
東京大学名誉教授  
台湾研究所学術顧問

渡辺 利夫

拓殖大学学事顧問  
前拓殖大学総長  
東京工業大学名誉教授